



香川の 土地改良

発行所

香川県土地改良事業団体連合会

高松市番町 2 丁目 4 番 27-301 号

TEL (087) 822-0303

FAX (087) 851-1787

<http://www.midorinet-kagawa.or.jp/>



三郎池の池干し（高松市三谷町）

目次

| | | |
|---|---------------------------|----|
| 1. 新年のご挨拶 | 香川県土地改良事業団体連合会 会長 大山 茂樹 | 2 |
| | 香川県知事 浜田 恵造 | 3 |
| | 四国土地改良調査管理事務所 所長 田中 久二 | 4 |
| | 香川用水土器川沿岸農業水利事業所 所長 渡邊 和真 | 5 |
| | 香川県農政水産部 部長 西原 義一 | 6 |
| | 香川県農政水産部土地改良課 課長 高尾 武司 | 7 |
| | 香川県農政水産部農村整備課 課長 飯間 勝 | 8 |
| 2. 平成 22 年度第 2 回監事会実施／第 147 回理事会開催 | | 9 |
| 3. 平成 22 年度第 2 回香川県土地改良施設管理円滑化事業 推進委員会管理専門指導員会開催 | | 10 |
| 4. 平成 22 年度農地利用集積推進対策会開催 | | 10 |
| 5. 三郎池クリーンアップ大作戦／会と催し | | 11 |



新年のご挨拶

香川県土地改良事業団体連合会

会 長 大 山 茂 樹

新年明けましておめでとうございます。

会員各位をはじめ、農業・農村整備事業の関係者の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

また、平素、本会の運営に対しまして、格別のご指導、ご支援を賜っておりますことに衷心より厚くお礼申し上げます。

新年を祝うことは、ほぼ世界共通の行事でありまして、日本でも古くから行われてきました。万葉集に「新しき 年の始の 初春の 今日降る雪の いや重け吉事」という歌がありますが、この歌は官吏であった大伴家持が新年の祝宴、いわゆる仕事始の式で詠んだ歌です。「今年は、良いことが雪が降るように積み重なりますように」という意味合いを込めまして、よき一年を願って正月を祝ったものであります。

さて近年においては、国際的な貿易の自由化や産地間競争の拡大などに伴う農産物価格の低迷、担い手の高齢化や後継者不足などによる耕作放棄地の増加、更には農村の過疎化や混住化等が進行し、集落機能の低下に加え、食料の生産基盤である農業水利施設が更新時期を迎え、その適切な保全・管理が危惧されるなど、農業・農村を取りまく環境は極めて厳しいものがあります。

特に、昨年は、国の農業農村整備予算が対前年度比 37%となる大幅な削減が行われ、会員の皆様方には大変なご心労をおかけするとともに、年末の T P P (環太平洋戦略的経済連携協定)問題では、農業者から農業経営に大打撃を受けるとの厳しい批判が寄せられているところであります。

このような中、食料、農業、農村に関する施策が大きく変わる新たな時代を迎え、食料供給力の強化と農業・農村の振興を図るため、社会共通資本である農地や農業水利施設の保全に努め、水田農業の再生と食料自給率の向上とともに、国土の保全や水源の涵養などの多面的機能を有する農村地域の活性化に関する施策の推進が強く求められております。

水土里ネット香川といたしましても、関係予算は非常に厳しい状況ではありますが、安全・安心な食料の安定供給や農業・農村の振興という県民の期待に応えるため、国、県、市町、土地改良区等と連携しながら、農業の戸別所得補償制度の本格実施と併せて、昨年来取り組んでおります農地の再生や農業水利施設の簡易補修整備、G I S (地図情報システム)の活用等の支援に取り組むなど、本県農業の持続的な発展に積極的に協力・支援していくこととしております。

また、これらの業務を通じて会員各位のご期待に応えられますよう、役職員一丸となって頑張る所存でありますので、今後ともご支援、ご協力をお願いいたします。

最後に、皆様方の今年一年のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。





新年のご挨拶

香川県知事 浜田 恵 造

明けましておめでとうございます。

香川県土地改良事業団体連合会会員の皆様方には、本県の農業農村整備事業推進の中心的な役割を担い、ほ場整備をはじめ、ため池や水路などの農業基盤整備を通じて、農業や農村の発展に大いに寄与されるとともに、県政各般の推進に格別のご理解とご協力をいただいております。深く感謝いたします。

ご承知のとおり、少子高齢化の急速な進行や人口減少局面への転換、経済のグローバル化による本県産業への影響など、本県を取り巻く環境は大きく変化しています。また、近年の地方分権の進展や国と地方を通じた財政状況の悪化などから、これまで以上に、自らの選択と責任に基づく効率的な地域経営が求められています。

こうした社会情勢の変化を踏まえ、現在、県では、広く県民の皆様様の御意見や御提言を伺いながら、平成 23 年度を初年度とする新たな香川づくりの指針として、次期総合計画を策定しているところであり、「元気・安心・夢と希望あふれる香川の実現」を基本目標に、独自の資源を活かして、新たな魅力を創造し続けるとともに、互いに支え合い安心して暮らすことができ、誰もが将来に希望を持てる社会づくりを進めるため、「元気の出る香川づくり」、「安心できる香川づくり」、「夢と希望あふれる香川づくり」の 3 つの基本方針の下、企業誘致、県産品の振興、子育て支援の充実、災害や渇水に強い県土づくり、観光振興、文化芸術やスポーツの振興等、各種施策を積極的に展開していこうと考えています。

皆様方の直接関わっておられる農業・農村の振興については、「元気の出る香川づくり」に結びつく重要な施策のひとつです。

本県農業は、収益性の高い作物を中心に全国に誇れる農産物を生産し、県内はもとより京浜や京阪神地域などに、新鮮で良質な農産物を供給するなど、特色ある農業を推し進めています。しかしながら、近年の農業を取り巻く環境は、農産物価格の低迷や農業従事者の急激な減少、さらには農村の過疎化や高齢化の進行など、これまでも増して厳しくなっています。こうした中で、本県農業の持続的な発展を図り、良好な状態で次世代に継承していくためには、担い手の定着と経営の安定・発展を助長し、意欲ある農業者の育成・確保とともに、農業生産の基盤となる優良農地の確保と有効利用等の取組みを進める必要があります。

このため、県としては、厳しい財政事情ではありますが、良好な営農条件を備えた農地の整備をはじめ、ため池や農業用水路などの農業水利施設の保全・改修、農業を核とした地域の活性化を図るための生活環境基盤の整備などに積極的に取り組んでまいります。さらに、水資源の涵養や自然環境の保全など、土地改良施設が有する多面的機能を地域全体で守り、豊かな自然と元気な農村づくりに努めてまいります。

今後とも、貴連合会をはじめ、土地改良区の皆様方との緊密な連携の下、農業・農村の振興に積極的に取り組んでまいりますので、なお一層のご理解とご協力をお願いいたします。

新しい年を迎え、貴連合会のますますのご発展と会員皆様のご健勝、ご活躍をお祈りいたします。



新年のご挨拶

中国四国農政局四国土地改良調査管理事務所

所 長 田 中 久 二

新年、明けましておめでとうございます。

平成 23 年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様方におかれましては、日頃から、香川県内の農業の振興、農村の活性化に向けて、農業農村整備の推進にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

さて、ご承知のとおり、昨年 3 月には、新しい「食料・農業・農村基本計画」が閣議決定され、現在の食料自給率 41% (カロリーベース) を平成 32 年度に 50% まで引き上げることを目標に掲げられました。その実現のために、農林水産省は、平成 22 年度に戸別所得補償モデル対策や、農業・農村の六次産業化の推進、優良農地の確保などの施策を講じ、農業農村整備も地域の裁量を活かした交付金制度の導入や、農地・水・環境保全向上対策を推進しつつ、基幹的水利施設の戦略的な保全管理手法を検討するなど、限られた予算の中でより効率的・効果的に事業を展開する仕組みに転換してきたところです。

このような中で、香川県では、戸別所得補償モデル対策の加入件数は 3 万 1 千件を超え、また、農地・水・環境保全向上対策も約 220 団体が活動を行い、香川県の将来の農業農村の振興に向けて、積極的に取り組んで頂いており感謝する次第です。

昨年末に平成 23 年度政府予算案が示されましたが、農林水産省関係では、戸別所得補償制度は畑作への対象の拡大や経営規模の拡大を図った場合に交付金を加算する等の拡充、農山漁村の六次産業化に向けた取組や地域資源を活用した新産業の創出を支援するための対策等の予算が盛り込まれています。

また、農業農村整備関係では国が造成した基幹的水利施設を対象に施設の長寿命化計画を策定した上で国自らが補修・補強等を実施する「国営施設機能保全事業」を創設するなど施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を一層、推進していくこととなっています。

現在、香川用水地区においては、緊急整備を要する施設については、国営造成土地改良施設整備事業で改修中ですが、香川用水は、施設造成後 30 年以上経過し、老朽化が著しくなっていることから、施設全体のリニューアルを行うべく、平成 20 年度より国営土地改良事業地区調査を実施しているところであり、会員の皆様方におかれましても、引き続き、当調査にご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に、当調査管理事務所は、今年も引き続き、農業農村整備にかかる地域の身近な相談窓口として会員の皆様方から様々な課題をお聞きして、その解決に向けて共に汗をかきながら努力して参りたいと考えていますので、本年もなお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

会員皆様方のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

中国四国農政局香川用水土器川沿岸農業水利事業所

所長 渡邊 和 眞

新年明けましておめでとうございます。

平成 23 年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

大山会長様をはじめ香川県土地改良事業団体連合会並びに会員の皆様には、平素より国営農業用水再編対策事業「香川用水土器川沿岸地区」並びに国営造成土地改良施設整備事業「香川用水地区」の事業推進にあたりまして、格別のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、早明浦ダムの貯水率も秋口までは高い率を維持し、水の心配をせずにすんだ年と言えるかもしれませんが、一方、夏の猛暑の影響により県産米で最も品質の高い 1 等米の比率が過去最低になるなど、農業の難しさを改めて認識させられる年でもありました。

当事業所も発足して 2 年を過ぎ、平成 22 年度予算は大変厳しい状況ではありますが、予備費や補正予算による積み増しもあり、「香川用水土器川沿岸地区」ではこれまでに改修予定の水路 17 路線の内 6 路線の工事に着手し、「香川用水地区」でも東部揚水機場の改修工事を皮切りに本格的な工事が始まろうとしております。

さて、最近では土地改良関係者の間でも、ストックマネジメントという言葉はすっかり耳に馴染んできたように思います。当事業所で実施中の事業も、施設の定期的な機能診断に基づく機能保全対策を通じて、既存施設の有効活用や長寿命化を図るというストックマネジメントの考え方に基づいて実施されております。現場では、事業計画で定められた改修計画を実施設計段階の機能診断でさらに精査することで低コスト化を図っており、これにより施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を進めるよう努力しています。

既存施設の更新は、例えて言えば家のリフォームにあたるかもしれません。はじめて家を建てるときは、いくら頭の中で理想の家を考えて、大工さんと綿密に打合せを繰り返しても、家が建ち、住み始めるとやはりいろいろ不都合があり、「ああしておけばよかった、こうもしておけばよかった。」と思ってしまう。リフォームをする際は、その経験が役に立つことになるわけですが、土地改良施設に不具合があるとすればそれを管理使用している土地改良区の皆様が一番よくわかっていることだと思えます。事業制度や予算の制約の中ではありますが、改修に際してはその皆様のご意見を最大限配慮していくことが何より大切だと考えております。

私事ではございますが、当事業所へ赴任する前は、ラオス国農林省灌漑局に派遣され、灌漑開発アドバイザーとして 3 年間勤務しておりました。ラオスでは 1990 年代から灌漑施設の整備が本格的に進められ、併せて、造成施設を農民グループに管理譲渡する政策が進められてきましたが、グループ自体の管理技術や組織の運営能力が脆弱なため、施設が有効に使われていなかったり、時には管理が不適切で故障しそのまま放棄されたりといった事態が発生しておりました。当事業所へ赴任し、関係改良区の皆様方と業務や地域貢献活動を通じてお付き合いさせていただくにつぎ、当たり前かもしれませんが改めて日本の土地改良区の組織としての能力の高さに感心し、そのすばらしさを実感しているところです。

本年も、両地区の事業推進に職員一同鋭意努力して参る所存でございますので、関係者の皆様の一層のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会のますますのご発展と会員皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。まして、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

香川県農政水産部

部長 西原 義一

平成 23 年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃、大山会長様をはじめ、香川県土地改良事業団体連合会会員の皆様方には、農業農村整備事業の推進はもとより、県政各般にわたり格別のご理解、ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

ご承知のとおり、現在、農業・農村は、総じて農業所得の減少、農業従事者の減少や高齢化、非効率的な農地利用や担い手などの後継者不足が続いており、産業としての持続的な発展が危惧される厳しい状況に直面しております。また、農村地域においても、過疎化により、地域コミュニティの維持が困難となるなど、その活力が失われつつあります。

一方、国際情勢においては、中国やインドをはじめとする新興国の経済成長等を要因とした中長期的な食糧需給の逼迫が見込まれていることに加え、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）への参加検討など、貿易自由化の進展による農業への深刻な影響が懸念される状況にあります。

このような状況に的確に対応し、農業・農村を持続的に発展させるためには、将来を見据えた食料供給力の強化、農業・農村の持つ国土や自然環境の保全などの多面的機能に着目した対策が必要であります。

このため、国では、昨年 3 月、「食」と「地域」の再生を図る、新たな「食料・農業・農村基本計画」を策定し、食料自給率を平成 32 年度に 50%まで引き上げる目標を掲げ、食料の安定供給の確保に関する施策をはじめ、戸別所得補償制度の導入など農業の持続的発展に関する施策、農業の 6 次産業化をはじめとする農村の振興に関する施策を強力に推進することとしています。

県においても、こうした国の動向や本県農業・農村の情勢の変化を踏まえ、これまでの「香川県農業・農村基本計画」に代わる新たな基本計画の策定に取り組んでおります。この中で、農業の基盤は土地と水であり、良好な営農条件を備えた農地や農業用水等を確保するための農業生産基盤の保全管理や整備は、本県の農業生産力を支える重要な役割を担うものでありますことから、農業農村整備事業の計画的な実施が極めて重要であると考えております。特に、更新時期を迎えている農業用水路の長寿命化対策や老朽ため池の整備、さらには、中山間地域など条件不利地域における地域の特色を活かした持続可能な農業の確立と農村の活性化のための農業生産基盤と生活環境基盤の総合的・一体的な整備などに重点的に取り組んでまいりたいと考えております。

これらの事業の円滑な推進において、貴連合会の果たす役割はますます重要になると考えておりますので、今後とも皆様方の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

本年が希望に満ちた明るい年となりますよう皆様方のますますのご健勝、ご多幸を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

香川県農政水産部土地改良課

課長 高尾 武司

あけましておめでとうございます。平成 23 年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃、香川県土地改良事業団体連合会の会員の皆様方には、農業農村整備事業の推進に格別のご支援、ご尽力を賜っておりますことに対しまして、厚くお礼を申し上げます。

ご承知のとおり、農地や農業用水は、食料の安定供給にとって不可欠な資源であると同時に、農業生産活動を通じて多面的な機能が発揮されますことから、国民の貴重な財産として守られるべきものがあります。しかしながら、農業や農村の衰退とともに、農地面積の減少が続き、農業生産が行われない耕作放棄地や不作付地が年々増加し、農山村の活力の低下といった厳しい状況に直面しております。また、農地の有効利用のために不可欠な農業用水については、農業水利施設の老朽化が進み、施設の将来にわたる機能の発揮に不安が生じている状況にあります。

このような中、去る 12 月 24 日に閣議決定された国の平成 23 年度予算案において、戸別所得補償制度を下支えし、食料自給率の向上に不可欠な農業生産基盤等の整備を推進する農業農村整備対策予算は、22 年度予算と同額の農業農村整備事業 2,129 億円に加え、農地・水保全管理支払交付金の長寿命化対策分 47 億円、戦略作物生産拡大関連基盤緊急整備事業 220 億円を合わせて 2,397 億円と、対前年度比 113% となったところであります。また、都道府県を対象に、社会資本整備総合交付金や学校施設環境改善交付金など 9 投資補助金・交付金のひも付き補助金を廃止し、地域の自由裁量を拡大するために内閣府に創設される地域自主戦略交付金(仮称)への拠出金 1,090 億円を含め、農山漁村地域整備交付金は 1,408 億円が認められたところであります。しかしながら、昨年度大幅に削減されたことを考慮すると非常に厳しい状況に変化はありません。

一方、県では、厳しい財政事情ではありますが、国の農業農村整備対策に関する施策の展開に合わせるとともに、事業の選択と集中をより一層徹底し、限られた予算を重点配分することにより、良好な営農条件を備えた農地の整備をはじめ、ため池や農業用水路などの農業水利施設の保全対策、中山間地域の活性化対策などに計画的に取り組んでまいりたいと考えています。

また、現在、「食」と「地域」の再生を図る国の「食料・農業・農村基本計画」や本県の農業・農村を取り巻く情勢を踏まえ、平成 23 年度を初年度とする新たな「香川県農業農村基本計画」の策定に取り組んでおります。この中で、元気な農業を支える条件づくりを目指し、地域ぐるみで地域農業の核となる担い手のニーズや地域の特色を活かした農業生産基盤の整備や農業生産に不可欠な農業水利施設の保全対策、さらに、これら農業水利施設の保全管理に取り組む土地改良区等の管理体制の拡充・強化に対する支援などに重点的に取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様方のなお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会のますますのご発展と、皆様方のご健勝、ご多幸を心から祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

香川県農政水産部農村整備課

課長 飯間 勝

明けましておめでとうございます。

平成 23 年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃、大山香川県土地改良事業団体連合会会長様をはじめ、会員の皆様方には、農業農村整備事業の推進に格別のご支援とご尽力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年は国の農業農村整備予算が戸別所得補償制度モデル対策関連により対前年度 36.9 パーセントまでに大幅な削減が行われ、貴連合会の会員の皆様や関係機関ともども農業農村整備事業の推進にあたり、大変ご心配とご苦勞をおかけしたところであります。昨年 12 月 24 日に閣議決定された平成 23 年度政府予算案によりますと、農業農村整備予算は対前年度と同額の 2,129 億円で、関連の基盤整備事業を加えると対前年度 113 パーセントに相当する 2,397 億円となっているものの、農山漁村地域整備交付金は対前年度 94 パーセントの 1,408 億円ということで昨年以上に厳しい予算案であると言えます。

その予算案の中では、平成 19 年度から各地域協議会を中心に活発な活動が行われている「農地・水・環境保全向上対策」が、減農薬・減化学肥料などの取り組みを支援する「営農活動」を切り離し、農地や農業用施設、農業用水等の資源と農村環境の保全向上活動を支援する「共同活動支援」に特化されます。また、名称が「農地・水保管理支払」に変更され、これまでに農地・水・環境保全向上対策や中山間地域直接支払制度により農地や農業用水等の資源の基礎的な保管理活動に取り組んでいる地域を対象に、老朽化の進んだ農業用排水路等の長寿命化のための補修・更新を行う集落等に対して、新たに「向上活動支援交付金」による支援が行われるよう制度の拡充がなされております。

このような中、本県では知事を筆頭に「元気・安心そして、夢と希望あふれる香川づくり」の実現に向け、昨年からの情勢や本県の特性を踏まえた施策実現のための「次期総合計画」を策定中であり、その計画の取りまとめにあわせ「次期農業農村基本計画」についても今年度取りまとめることとしております。

農業者が農地や農業用施設等の整備や補修・更新を実施し、農作物の生産量の増収や品質を向上させるための作り易いほ場条件を整備する農業生産基盤の整備を行う各種農業農村事業は、国の予算編成に影響を大きく受けるものの、農業農村の振興を図るための産業振興施策上、欠くべからざるものであることは言うまでもありません。しかしながら、一方では農村の農業従事者の減少や高齢化などの社会情勢を見ますと、地域全体で農地や農業用施設、農村の伝統文化などの農村の社会資源を保全・管理・継承し、国土の保全はもとより集落機能の保全を図る地域振興施策の充実が今後益々重要かつ必要となってくるものと考えております。

こうしたことから、現在、積極的に集落や地域で取り組んでいる「農地・水・環境保全向上対策」や「中山間地域直接支払制度」については、農家や地域の方々の貴重なご意見やご要望に応えた取り組みやすい制度に磨き上げて行くことが、真に農村に根付いた協働活動を活発化させ集落の保全につながるものと考えており、両施策の推進を引き続きより一層積極的に取り組んでまいりますので、関係の皆様方のご理解とご支援をお願いします。

最後になりましたが、貴連合会の益々のご発展と会員皆様方のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

平成 22 年度第 2 回監事会実施

去る 12 月 17 日午後 2 時から本会会議室において平成 22 年度第 2 回監事会が実施された。

当日は森川代表監事を始め稲尾監事、菰渕監事の出席と山地常務理事の立会を得て平成 22 年度の間監査が行われ、予算執行状況及び財務状況について、何れも適正に処理されていることが認められた。

監査終了後、森川代表監事より「本年の農業農村整備事業予算の減少等により業務運営の苦しいなか、節約に徹していると伺えるが、会員の付託に応えるため、今後とも本会業務の推進になお一層の努力をお願いします。」との講評があり監事会を終了した。



本会第 147 回理事会開催 職員給与規程の一部改正など 2 議案を承認

第 147 回理事会が 12 月 22 日、本会会議室において、来賓に県から西原農政水産部長、高尾土地改良課長、飯間農村整備課長の出席を得て開催された。

冒頭、大山会長から本年に実施した国・県等への農業農村整備事業予算確保に向けての要望活動参加に対する謝辞の後、「厳しい状況であるが日本の国にとって必要な農業農村整備事業がこの香川の地から、決してなくならないように全力で取り組んでまいりたい」と挨拶。



続いて、西原農政水産部長から本会の日頃の農業農村整備事業推進と県政各般にわたる協力に対してお礼が述べられた後、今後の農業農村整備事業について触れ、「安全・安心面での事業がため池整備や水利関係の施設整備、また、元気が出る施策を柱に取り組んでおり、その中に基盤整備を盛り込んでいきたい」と話された。引き続き、大山会長が議長となり、第 1 号議案及び第 2 号議案について審議され、いずれも原案どおり承認可決された。

議案審議後、報告事項として山地常務理事より、本会中部支所の事務所移転についてと水土里情報利活用促進事業の農地情報システムの今後の展開についての報告がなされた。

第 147 回 理 事 会 議 案

第 1 号議案 平成 22 年度一般会計収支補正予算について

第 2 号議案 職員給与規程の一部改正について

平成 22 年度第 2 回香川県土地改良施設管理円滑化事業 推進委員会管理専門指導委員会開催

去る 12 月 3 日、本会会議室において平成 22 年度第 2 回香川県土地改良施設管理円滑化事業推進委員会管理専門指導委員会が開催された。

香川県農政水産部土地改良課高尾課長出席のもと、平成 23 年度土地改良施設維持管理適正化事業新規加入地区 3 施設の補修計画並びに年度別実施計画について協議を行った。



平成 23 年度新規加入予定地区

- | | |
|--------------|-------------|
| ・小豆島町 | (排水機) 池田大池 |
| ・新川沿岸土地改良区連合 | (水路) 新川沿岸 |
| ・豊浜町土地改良区 | (畑かん) 豊浜畑かん |

平成 22 年度農地利用集積推進対策会開催

去る 12 月 16 日、本会会議室において香川県農地利用集積推進対策会が開催された。

この会は、ほ場整備等基盤整備事業が完了した地区において土地改良区等が行う農用地の利用集積活動に対する技術的指導及び啓発普及を目的としている。

始めに、本会山地常務理事より開会の挨拶があり、続いて参加者の自己紹介、その後 4 つの項目について協議された。まず、「委員長及び副委員長の選任について」、今年 4 月水土保全強化対策事業の要綱・要領の一部改正があり、それに伴い委員も改選された。委員長には、香川県農政水産部土地改良課阿部課長補佐、副委員長には三豊市建設経済部農業振興課菅野主任が選任された。次に、「平成 21 年度農地利用集積推進地区の推進状況について」、現在推進しているまんのう町の新目地区第 3 工区、三豊市の麻地区の状況が報告された。次に、「平成 22 年度農地利用集積推進地区の選定について」、今年度は、東かがわ市の相生地区馬宿団地を選定した。最後に、「農地利用集積推進地区の指導方針について」説明があった。以上地区の状況等の質疑の後、いずれも原案通り承認された。



“GIS（地図情報システム）を利用して農地流動化へ”

農業者や農地の各種最新データを即時出力でき、地域全体の農地利用の把握が容易となり、換地処分地区を拠点として、広範囲において将来を見据えた農地利用集積対策に貢献。

三郎池クリーンアップ大作戦

水土里ネット三郎池・水土里ネット三郎池地域

去る 12 月 18 日、高松市三谷町の三郎池で水土里ネット三郎池と農地・水・環境保全向上対策の活動組織である水土里ネット三郎池地域主催によるクリーンアップ大作戦が実施された。当日は、地元の小学生、老人会、市関係者、三郎池土地改良区並びに水土里ネット三郎池地域の役職員、その他各種団体等約 150 名が参加した。



三郎池では 5 年ぶりに「池干し」を行うため、稲の収穫後の 10 月中旬から放流を開始していたが、水が抜けた池敷からはペットボトルや空き缶、ビニール類、パソコン、自転車、バイクなど約 3.5 トンのゴミが収集された。

人事異動

◆ 香川県 (1 月 1 日付)

| 新 | 旧 | 氏名 |
|----------------------------------|----------------------------|------|
| 農政水産部次長 | 農林水産技術会議事務局 研究推進課産学連携室長 | 川合豊彦 |
| (農林水産省へ復帰) 農林水産技術会議事務局総務課調整室長 | 農政水産部次長 | 滝沢永佳 |

会と催し

| 開催月日 | 会の名称 | 開催場所 |
|---------------|--------------------------------------|------|
| 12 月 13 日 | 三豊市担い手育成総合支援協議会幹事会 | 三豊市 |
| 14 日 | 平成 22 年度土地改良負担金総合償還対策事業担当者会議 (第 3 回) | 東京都 |
| 16 日 | 平成 22 年度香川県農地利用集積推進対策会 | 高松市 |
| 16 日 ~17 日 | 平成 22 年度農業集落排水事業担当者全国研修会 | 東京都 |
| 17 日 | 平成 22 年度第 2 回監事会 | 高松市 |
| 〃 | 香川県農業会議常任議員会議 | 高松市 |
| 〃 | 綾川町担い手育成総合支援協議会幹事会 | 綾川町 |
| 21 日 | 香川県水田農業振興協議会総会 | 高松市 |
| 22 日 | 第 147 回理事会 | 高松市 |
| 〃 | 平成 22 年度第 9 回観音寺市地域担い手育成総合支援協議会幹事会 | 観音寺市 |
| 1 月 7 日 | 都道府県土地改良事業団体連合会責任者会議 | 東京都 |

賀 春

新年あけましておめでとうございます
本年もよろしくお願ひ申し上げます
平成 23 年元旦



香川県土地改良事業団体連合会

(水土里ネット香川)

| | | | |
|---------|---------|----------------------------|---------|
| 会 長 | 大 山 茂 樹 | 理 事 | 佐々木 勇 |
| 副 会 長 | 組 橋 啓 輔 | " | 村 上 明 秋 |
| 常 務 理 事 | 山 地 孝 士 | 代 表 監 事 | 森 川 光 典 |
| 理 事 | 石 原 收 | 監 事 | 稲 尾 正 成 |
| " | 十 川 昭 五 | " | 菰 渕 將 鷹 |
| " | 泉 川 静 雄 | 顧 問 | 猪 熊 薫 |
| " | 三 笠 輝 彦 | 参事・事務局長 | 湊 敏 好 |
| " | 谷 久 嘉 典 | 総 務 課 長 (兼)換地登記課長 | 野 瀬 康 弘 |
| " | 松 岡 正 博 | 調 査 設 計 課 長 (兼)農業集落排水課長 | 鎌 田 忠 |
| " | 千 葉 宗 和 | 企 画 指 導 課 長 | 多 田 竹 夫 |
| " | 篠 原 静 夫 | 電 算 課 長 | 大 河 仁 司 |

ほか職員一同

大川支所

(兼)支所長 上 原 秀 雄

小豆支所

(兼)支所長 鎌 田 忠

中部支所

支 所 長 上 原 秀 雄

主 幹 岡 賢 治

(兼)支所次長

支 所 次 長 武 下 幸 徳

仲多度支所

支 所 長 内 海 幾 夫

主 幹 安 川 哲 生

(兼)支所次長

支 所 次 長 太 田 久 夫

三豊支所

支 所 長 高 木 康 博

支 所 次 長 前 川 公 則

ほか支所職員一同